

A-STEPの公募説明会に行ってきました。

産 学連携展開部は、大学などの研究成果を企業に橋渡しする「技術移転事業」を推進しています。私が担当する研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP)もその1つで、大学や公的研究機関などで生まれた研究成果の実用化を推進し、社会への還元を目指しています。

A-STEPでは、公募の時期に合わせて各地で「公募説明会」を開いています。平成23年度の第2回公募では、部のメンバー20名が全国約100カ所で説明会を開き、私も秋田県内などの10カ所を担当しました。

1回の説明会は1時間半から2時間で、前半はA-STEPの制度に関するプレゼンテーションを行います。その後、出席された研究者や産学連携コーディネーター、企業などの方々と個別に相談する時間を設けています。

A-STEPは、研究の初期フェーズである「フィージビリティスタディ(FS)ステージ」と、実用化に近い「本格研究開発ステージ」に分かれており、研究開発のリスクやフェーズにマッチするよう、合計8タイプのプログラムを用意しています。たとえば、企業と共同で量産化に向けた大規模な検証を考えている場合は、支援期間が長く、研究開発費用の支援額も大きい「本格研究開発ステージ」の「実用



イノベーション推進本部

産学連携展開部 事業推進(募集・探索)担当
主査

中島章光 (30) なかじま・あきみつ

●業務の内容

A-STEP全体の募集業務に加え、FSステージの「探索タイプ」に採択された課題の推進も行う。「無機化学」と「情報通信」分野の課題を担当。研究開発支援や産学連携コーディネート活動の推進業務に従事している。

●Background

茨城大学卒業後、名古屋大学大学院理学研究科に進み、同大学院博士課程終了。博士(理学)。専門は宇宙物理。日本学術振興会の特別研究員として観測にもとづいたオーロラの研究を行った後、JST入社。現在2年目。

化挑戦タイプ」が適しています。逆に、まだ技術移転の可能性を探っている初期段階であれば、支援期間が短く、支援額も小さい「FSステージ」の「探索タイプ」として、広く実用化のための第一段階の取り組みを支援します。すべてのタイプの窓口は、私たち「事業推進(募集・探索)担当」に一本化されていますから、申請したい研究者や企業の方は、公募説明会で私たちに相談していただければ、最適なタイプと一緒に検討します。電話などのご相談も受け付けています。

A-STEPのなかでも、研究の初期フェーズである「探索タイプ」に申請するには、研究成果の実用化を希望する大学の助教や准教授などの若手研究者も数多くいます。A-STEP探索タイプでの研究を経て、研究者に企業から声がかかることがあるようです。

また、地方の私立大学や高専、公設試験研究機関のなかからも、A-STEPでの取り組みを機に地元企業との共同研究がスタートした例もあります。

私自身も、若手の研究者や都市圏、地方を問わず全国各地の優れた技術シーズについて、技術移転を初期段階から支援し、研究成果が製品化に結びつくまでのステップアップを見守っていきたくと思っています。



(左) A-STEPの説明会には、さまざまな分野の研究者が参加する。(中)説明会終了後に申請に関する個別相談も行う。(右)担当する課題については研究拠点に足を運ぶサイトビジットなど、研究者のフォローも行っている。

TEXT:Office彩蔵